

賀正



昭和62年の新春を迎え、誠におめでとうございます。
1月6日、新年の行事はじめての1つ、消防出初式が行われました。諏訪神社での御成いの後消防車の市中パレード、そして小須戸橋下手での一斉放水で今年一年の無火災を祈りました。
(写真提供 本町1 風間源一郎)

小須戸公民館報

町館 須戸公民館
小中 中央公民館
発行人 成田常信
発行日 毎月15日
印刷所 (株)昭栄堂印刷所

1987年 年頭のごあいさつ

小須戸町教育長 丸山敬雄



教育環境の整備をめざして

新年おめでとうございます。新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
恒例になりました、町民元旦マラソン大会も第十五回を迎え、二三年続きの豪雪で心配された天気も今年は雪のない大会となりました。大会には元気な青少年が百二十名余りの参加で、その中、今年も新津南高校生二十名余りの参加もありました。一人の落伍者もなく完走した姿、たくましく伸びようとする姿をみて本当に心強く思ったのであります。

昨年は町財政の厳しい中にも関わらず町の総合計画に基づいて教育環境整備で小須戸小学校移転改築、町民体育館改修等を実施してまいりました。

小須戸小学校改築は、昭和五十九年度以来校舎棟、屋内体育館を初めグラウンド新設など立派に竣工し、予定通り昨年九月に移転開校ができました。皆様の暖かいご理解と絶大なご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。

六百余名の児童が一生懸命に勉強に、また今まで供用であったグラウンドも専用グラウンドとなり伸びぐくとして運動に励んでおります。また計画で残された学校プールについても、六十二年度に整備をするよう準備を進めております。

町民体育館床張替工事も、竣工後十五年余り経過して来ましたが、本年度も財政の厳しいところであり、学校、社会教育環境整備を引き続き計画実施して行きたいと思っておりますので町民のみなさんのご協力を重ねてお願いいたします。

初春のイベント

町民元旦マラソン大会

心地よい江で一年をスタートさせようと、恒例の町民元旦マラソン大会が雪まじりの曇り空の中開催されました。

十五回を数えたこの大会には百二十名が参加。二、三コースと三、四コースに分かれて行い、事故もなく全員完走しました。

部門別の成績は次の通りです。
【一〇】 ①村山邦雄 6分44秒
②木村英昭 ③大関光義 ④渡辺賢次
⑤佐藤寛之 ⑥五十嵐潤 ⑦渡辺正彦 ⑧吉田利成 ⑨小畑崇 ⑩風間貴之

【三〇】 ①川瀬博幸 11分33秒
②荒木征昭 ③上村伸也 ④松沢憲司 ⑤神蔵直史 ⑥渡辺明宏
⑦⑧⑨は順位を表わします



臨時休館日のお知らせ

町長選挙に伴い、中央公民館は一月三十一日(土)の夜間及び二月一日(日)の全日を休館いたします。ご了承ください。

柔剣道 振興会 だより

寒稽古のお知らせ
寒稽古を左記の予定で計画しております。多数のご参加をお願いいたします。

期日 二月二日・二月十一日
会場 剣道 小須戸中体育館
柔道 柔剣道場

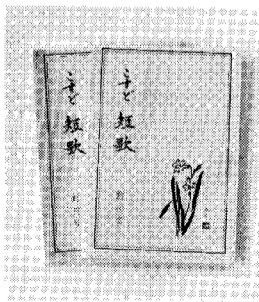
時間 午後七時・八時二十分
開会式 二月二日午後六時四十分より柔剣道とも中学校体育館で行います。六時三十分まで集合して下さい。

寒稽古納会 二月十一日・祝日
会場 中学校体育館
剣道 三段 佐藤賢(中央町3)

こすど短歌創刊号拝見

中央公民館初心者短歌教室より発展したこすど短歌会は、去る十二月十九日、会員の手造りによる「こすど短歌(創刊号)」を刊行しました。

内容は二十名の会員と講師及び指導の先生方の作品が収録されており「始めたばかりの時と同じ人とは思われない程、勝れた歌が詠われている」との講師



俳句に挑戦

水田老人クラブ

十二月十七日(水)、水田老人クラブでは俳句の学習会が行われました。俳句の世界という映画の後、講師の成田中央公民館長より懇切にいいな指導で全員が句作に入りました。出来上がった作品を鑑賞し合っ中「今日は今日の勉強を基にして自宅で作って持ち寄ることにしよう」と話しができました。次に作品の一部をご紹介します。

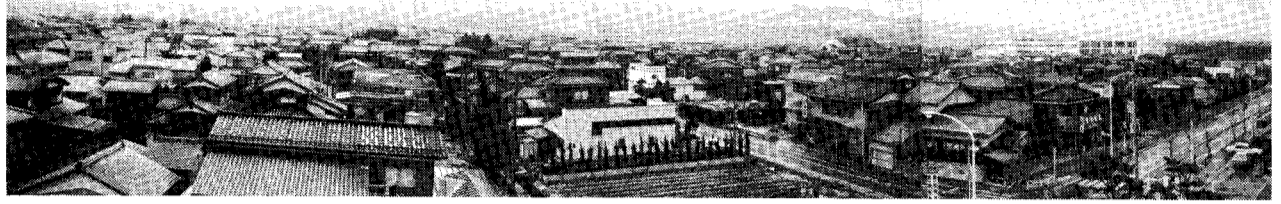
- 先駆けに鳥に食へられ美南天 鈴木 ハナ
- 雪消しの井戸堀りながら首すくめ 鈴木 シズ
- 初雪や四方の山々ほほかわり 高井 正松
- 木枯しに吹かれてさえずる夕雀 小畑 一郎
- 水田老人クラブ学習会映写教室 一月二十七日(火)午後一時三十分より水田集落センターにて

町民インドアテニス大会

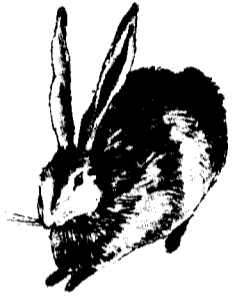
日時：2月8日(日) 午前9時集合
会場：町民体育館

申し込み：2月2日までに中央公民館へお申し込みください。(TEL 38-2234番)

私の考える10年後の小須戸



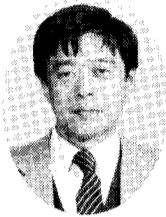
初夢



文化 誇るべき

文化の町に

水田 木村 宗文



皮相的に見れば、小須戸の町は在郷町として発展してきたもので、必ずしも他に誇るべき景観を町並にとどめておけるわけはありません。また、茂林寺の国宝子育延命地蔵尊以外は、これといった文化財があるわけでもありません。

しかし、人の営みがあれば、それなりの文化はあつたはずで、小須戸の町の人々がどのようになつて、どのように生きていくのかは是非とも知っておきたいことです。

育まれてゆくならば、「文化の町小須戸」もあながち夢ではありません。

心豊かな町造りのために、住民が自分達の文化を認識し新たな文化を創造する場として、資料館と文化会館の機能を備えたような施設ができるとすれば、それこそ私にとって最高の正夢となります。

スポーツ 将来の小須戸の初夢

矢代田第11 小林 勉



明けましておめでとございませう。年の始めにあたり各種スポーツ団体の皆様方におかれましては今年の計画をいろいろと考へておられる事と思ひます。近年小須戸のスポーツ施設も、年々充実の傾向にありますが、今一つ物足りない感じがします。

商工業 十年後、つまり一九九七年の小須戸町の姿は如何に

本町3 井上 裕郎



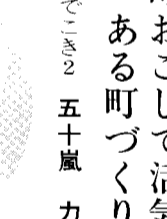
新幹線、高速道路等々、あらゆる高速交通体系の整備が進み、人的・物的交流が盛んになり、日本全国が、特に新潟が全国的に同歩調のとれる時代がくるの

も夢ではありません。小須戸町においても、近年より一層の活性化が叫ばれており、近隣市町村への大型店の進出が盛んになり、工業団地、流通団地、卸団地等々の企業の集約化も急ピッチで進んでおります。小須戸町にも大きな影響を与えております。

従来存在していた商業地域、工業地域の立地条件が変化し、人・車の流れも変わり、小須戸町だけを考へても、この時代の急激な流れは、従来存在していた私達の全てのものに対する観念を根底から大きく変革し、全く新しい商工業をして、小須戸町の体系を創造させる。エネルギーであります。

農業 町おこしで活気ある町づくり

うでこぎ2 五十嵐 力



私達はこの「エネルギー」の導くままに、そして押しつぶされることなく二十一世紀を迎えたいものです。

おこしが盛んに行われている情勢の中で、我が町は近隣市町村と比べ、全体的に活気がないように思われるのは、私一人ではありません。十年後の生活は物質的な豊かさはもろんの事ですが、心の豊かさを求める時代になると思われます。幸い小須戸町には、「花と緑の小須戸町」のキャッチフレーズと、全国的に有名な園芸が地産産業としてあります。行政と全町民一体となり花と緑を慈しみ、育てること、心の豊かさ、町の活性化を進めたいと思ひます。

その中心となるのは青年達でしょう。しかし、今の小須戸には若い人達が勤める職場が、あまりにも少ないのが現状です。企業誘致を計り、青年層を積極的に町に定住させ、明日の小須戸町を担う青年達が中心となり町づくりに取り組む、豊かで住みやすい小須戸町を築く。十年後の私の理想とする小須戸町です。

野球連盟審判部 役員交替

（部長）高橋 勲（副部長）井上 幸二（会計）武沢 昭平（監査）渡辺 安喜雄（事務局）加藤 昭松 外審判員十一名 尚、野球審判をやってみたい方とどんと事務局へご連絡ください。

催しものご案内

スポーツ少年団 大会

日時 二月八日(日) 午前九時 三十分までに集合

定期映画会のご案内

新年最初の映画会です。親子そろっておいでください。

小須戸町バドミントンレディースクラブ会員を募集しています。

寄贈御礼

松ヶ丘、中川四三様・中央町三、荒谷英子様・新潟市、加藤国一郎様より圖書を公民館図書室へご寄贈頂きました。大変ありがたうございました。

図書だより

◇大黄河第三巻 N.H.K
◇赤穂浪士 大佛 次郎
◇女歌 中島みゆき
◇ほろ酔い行進曲(放浪編) 加藤登紀子

町おこしで活気ある町づくり

◇特急おき3号殺人事件 西村京太郎
◇天風先生座談 宇野 重吉
◇アドルフに告ぐ(全四巻) 手塚 治虫
◇ころもで聴く 田中のり子
◇織田信長(上) 山岡 荘八
◇湘桂公路一九四五年 阪本 楠彦
◇新潟県人物群像 新潟日報社
◇ドキドキメント昭和第七巻
◇日本人が外に出るとき 犬養 直子

短歌

冬將軍威圧の様に北国の初春雪の多く降り積む
杉深き社しらむや初鶉一声残し夜をはなれゆ
生れ出て一と月に満たぬ嬰兒のあけあるこえ
が電話にきこゆ

我妻清作 伊藤照溪 加藤 茂

十二月例会作品

小須戸町俳句同好会

工場の流れ作業や日の短
たなごころはなれて寒からさうり
高原のロッチに穂せし秋
おみくじが中吉とあり神無月
練炭の匂う魚店市盛り
敷きつめし銀杏に歩中たためらえり
沖ばかり見てははくれの海女溜り
境内に瀬戸物売り来て冬に入る
天麩羅の匂いこもりて夕時雨
山裾の少し明るき片時雨
千大根山見ゆ窓をふききけり
満天星が燃えて部落の集會日
束の間の日和大根とり急ぐ
冬仕度終えて火に投ぐ古軍手
前寺も鐘樓を借り木根干す

富沙子 素糸 久子 可津明 野蒜 ミナ 越 松山 香山 美根子 秀穂 良遊 太浪 のり生 虚秋

中学生文芸

～蘭汁会～ 俳句クラブ作品～

蘭鍋に一本ものの大根
蘭の鍋蓋開けみんなの高き声
蘭鍋に浮かぶ大根笑い生み
蘭鍋の底にひっそり大根
蘭鍋に入れるは丸ごとお大根
蘭汁に漬かってはくわの倍と化し
笑い物の大根を取り合う蘭汁会
盛り付けの箸を取り合う蘭汁会
ゆで卵蘭鍋の中浮き沈み
蘭鍋にとろけた餅のねばりつき
蘭鍋の底から湧き出るいくら粒
俳句より食いが先の蘭汁会
友人のアイデアアツまる蘭汁会

野崎 佳恵 吉田美佐子 白井 美和 荒木加代子 藤井 理子 高山 由香 渡辺 育美 内山 香 高野 綾子 井水久美子 加藤よしみ 川瀬 理恵 横山 伸子

川柳教室作品

題「正月」

年始客迎える母の割烹着
金もなく恋人もなく寝正月
酒テレビ飽きて横向く寝正月
かも知れぬ祈りを籠めて初詣で
元旦も年賀の客で落着かず
お年玉あてこむ孫の予定表
四年目に候補がくれる年賀状
くる年に平和な暮らし願う列
初詣で過去と未来に手を合わせ
初春を活けて屠蘇酌む三世代
芽出度さはまだ中途で才受驗年
元旦に一人火爐で酒の味
年明けで飲んだり食ったり寝正月
お屠蘇より著すする下戸の知恵
年賀状今年も無事で読める幸
明けましてそのあと孫の下心

み 夕 幸 キ 春 信 キ ユ ノ
タ ネ 世 ヨ 江 子
な ね